

# 市民後見人の選任の拡充に向けた取組 ～ リレー事案の例 ～

## 中間検証報告書における指摘【市民後見人の育成・活用の推進】

- ・ 担い手の確保や適切な後見人等を選任
- ・ 地域住民同士が支え合う地域共生社会の実現



### 市民後見人の育成・活用の推進が望まれている。

現状では、養成者数に比べて市民後見人の選任数は少ない  
(令和2年における市民後見人選任事案数 311)

### 選任上の 問題点

- ① 市民後見人の選任に適した事案についての認識共有の必要
- ② 市民後見人に対する支援体制等の充実の必要
- ③ ①②とも相まって、新規案件での市民後見人の選任に現実的制約

中核機関等による候補者推薦・  
支援機能の充実の必要

### 運用上の 工夫例

#### 専門職後見人から市民後見人へのリレー方式

- 例えば
- ・ 専門職後見人が選任されている継続中の事件で、既に課題が解決している事案
  - ・ 開始時の課題が選任の隘路になるが、当該課題解決後に市民後見人が活躍できる事案



市民後見人の活躍の場を広げ、本人の状況  
に最も適した後見人の柔軟な交代を実現

→ 一部の地域においてこの取組を実践

### リレー方式の メリット

- リレー方式であれば
- ・ 従前の経過を知る専門職後見人の協力を得て、裁判所・関係機関等でより効果的な連携が可能
  - ・ 当初課題対応に専門職が力を発揮した上で、より身近な市民後見人が強みを活かした関与が可能
- 専門職との役割分担（広い意味での連携）

\* 市民後見人の強み：地域共生の理念に適った、本人に身近な、本人に寄り添う身上保護等

### 運用上の課題

#### 関係機関相互の 連携・認識共有

- ・ 市民後見人の強み、選任に適した事案のイメージの実質的な共有
- ・ リレー方式の基本的な考え方や事務フローについての認識共有

\* 市民後見人の支援に実質的に専門職が関与する体制の整備の工夫

裁判所、地方自治体、専門職団体等  
の関係機関が適切に連携



地域連携ネットワークの中で市民後  
見人を支える仕組みの構築が必要

# リレー方式における関係機関の連携のイメージ

既に専門職後見人が  
選任されている事案

専門職後見人

後見人の辞任  
許可の申立て・  
選任申立て

市民後見人へ  
の交代

リレーの相当性を検討 ※

各関係機関が  
市民後見人に適した事案  
のイメージを共有

家庭裁判所

社会福祉協議会等

リレーの相当性を検討

リレーの相当性を検討  
(受任調整の見直しを含む) ※

※ 後見人が交替すること  
について本人の意向を確認  
することで円滑なリレーを  
実現

**「リレーの相当性」 = 市民後見人に適した事案のイメージの適切な共有**

・ 様々な事項について率直に協議できる環境を整備

・ 市民後見人の選任拡充に向けた問題意識の共有